

水巻町国際交流協会

ペシャワール会支援室長
藤田千代子 講演会



ドキュメンタリー上映

良心の実弾

医師・中村哲の遺したものの



イチョウフェスタ
2025

PMS (平和医療団・日本)

2025年 7月26日(土) 12:00 開場

13:00 良心の実弾 医師・中村哲の遺したものの 上映

14:10 ~中村哲をささえた看護師~ 藤田千代子 講演会

「アフガニスタンに命の水を」

【参加費】 無料 【場所】 水巻町中央公民館 大ホール

【申込】 不要 【定員】 500名 (先着)

- ※満席の場合、入場をお断りさせていただきますのでご了承ください。
- ※やむを得ない事情で中止となる場合はHP等でお知らせいたします。
- ※駐車場には限りがございます。当日は混雑が予想されますので出来るだけ公共の交通機関をご利用ください。

主催 水巻町国際交流協会
共催 水巻町教育委員会

093-201-4321 (390)
福岡県遠賀郡水巻町頃末北1-1-2 中央公民館2F



中村哲 なかむらてつ

昭和21年、福岡県生まれ。九州大学医学部を卒業後、国内の病院勤務を経て、昭和59年にパキスタン北西辺境州の州都ペシャワールの病院に赴任。ハンセン病などの治療に始まり、難民キャンプや山岳地域での診療へと活動を広げ、平成3年にアフガニスタンに最初の診療所を開設した。その後、アフガニスタン東部山岳部の3診療所を中心に医療活動を行う中、平成12年に大干ばつがアフガニスタンを襲った際、医療だけでは人の命を救うことができない現実を前にし、安全な水を得るため、1,600本の井戸を掘り、さらには日本伝統の治水技術を用いて灌漑用水路を建設し、広大な農地を回復した。用水路工事は雇用を生み、難民の帰還を促すとともに、彼らが農民として平和に暮らすことを可能にした。

その後も、ペシャワール会の現地代表として常に医療や国際協力の現場で先頭に立ち、農地の回復を続け、令和元年までに1万6,500ヘクタールの大地を緑に甦らせ多くの人々に水の恵みをもたらした。

その活動は国内外で高く評価され、これまでにアジアのノーベル賞とも呼ばれるマグサイサイ賞をはじめ、ガジ・ミール・マスジット・カーン勲章（アフガニスタン国家勲章）、旭日双光章など数々の賞を受賞。福岡市においても平成25年に福岡市出身者として初めて福岡アジア文化賞大賞を贈賞。さらに令和元年10月にはアフガニスタンから名誉市民権が授与され、亡くなられた後においても、長年にわたる国際人道支援や国際協力への貢献を称え、同年12月には旭日小綬章が授与された。

本来の素朴な正義感や思いやりを
理屈の中で変質させてはいけ
それぞれの「ペシャワール」に向けて
良心の実弾をぶち込め

中村 哲 ペシャワール会報より

ペシャワール会 PMS

PMS(Peace (Japan) Medical Services : 平和医療団・日本)は、故・中村哲医師が率いた現地事業体。医療団体だが、病気の背景に慢性の食糧不足と栄養失調があることから、荒廃した農地の回復が急務だと判断。今なお進行する大干ばつの中、灌漑水利事業に重きを置き、現在はダラエヌール診療所、農業事業、灌漑事業、PMS方式取水技術の普及活動に尽力している。



藤田千代子 ふじたちよこ



鹿児島県出身。徳洲会病院（福岡市）勤務を経て1990年9月、当時中村哲医師の赴任先であったパキスタン・ペシャワールのミッション病院へ看護師として赴任。以降、医療活動を始め、井戸掘り、食糧配給、その後の用水路事業等、一貫して中村医師の現地活動を支えてきた。1998年日本の寄付でペシャワールに建てられたPMS基地病院（総院長・中村哲）では、院長代理の責務を果たした。2009年、現地の治安悪化のため退避帰国し、現在ペシャワール会PMS支援室室長およびPMS総院長補佐として、現地活動を支えている。

2022年、フローレンス・ナイチンゲール記章を受賞。